

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 井堀 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

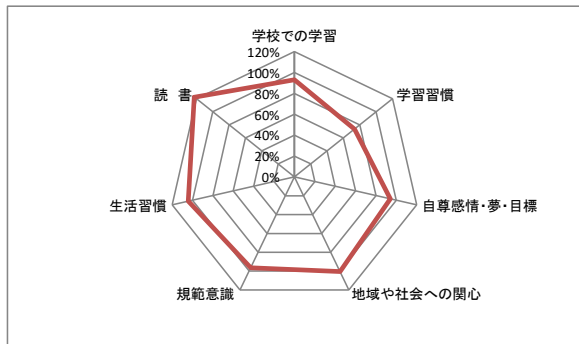
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	問題形式としては、「選択式」の問題は、全国平均正答率を上回っているものの、「短答式」「記述式」の問題では、正答率が低くなっている。また漢字や文章記述で答える問題の無回答率が全国平均を上回っている傾向が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「文章の構成を考える」問題、「資料を用いた目的を理解する」問題は、全国平均正答率を上回っている。	
	努力が必要な問題	「漢字」や「文の中で主語述語の関係を捉える」問題を苦手としている傾向が見られた。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「測定」などの問題は、全国平均正答率を上回っている。一方、「変化と関係(速さなど)」や「データの活用(分類整理)」の問題で、正答率が低くなっている。また、全体的に無回答率が全国平均を上回っている傾向が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「二つの道のりの差を求める数値を選び求め方と答えを記述する」問題、「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」問題は、全国平均正答率を上回っている。	
	努力が必要な問題	「変化と関係(速さなど)」や「データの活用(分類整理)」の問題を苦手としている傾向が見られた。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・平日の読書の時間については、全国平均を大きく上回っている。今後とも読書ボランティアによる読み聞かせや日々の読書活動の充実を図っていく。 ・「家で自分で計画を立てて勉強している(学校の授業の予習・復習を含む)」 ・「平日に1時間以上学習している」割合が全国平均を下回っている。「学校での学習」に関する項目については、概ね全国平均と同じであることから、学校からの宿題を含めた家庭での学習習慣が今後の課題である。 ・「自分によいところがある」「将来の夢や目標がある」について肯定的な回答をした割合が全国平均を下回っている。学校全体で継続的に、自尊感情や自己有用感を高める取組を進めていくことが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎的基本的な内容を確実に定着させるために、授業時間内での適用問題を通しての学習内容の確認を確実に行う。 ・問題文の条件や問われていることなどを確実に把握できるようにするため、「話を最後まで聞く」「文章や問いを最後まで読む」ことを徹底する。 ・授業や学校、学年行事、日々の生活の中で自分のよさや自己有用感を開けることができるように、一人一人が活躍する場面を意図的に創出する。また子どもたち自身がお互いに褒めたり認めたりできるような、学級・学校の雰囲気づくりを行う。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習(宿題)の内容や時間を精査し、努力が必要な内容の補充となるようにする。また・児童一人一人のつまづきを丁寧に把握し、個々の課題に沿った支援やサポートを行う。 ・学年別に家庭学習の取組の様子を把握し、学級で優れた自主学习ノートを掲示したり頑張りを称賞したりして学習意欲の向上を図る。 ・家庭学習の習慣の定着については、保護者会や通信等の機会に継続的に保護者に呼び掛けていく。
--